

メッセージアウトライン

ガラテヤ 4：21~31「自由の女の子ども」

「律法の下にいたいと思う人たちは、私に答えてください。あなたがたは律法のいうことを聞かないのですか」(21) これは律法に従うことによって救いを得ようとするガラテヤ人に対して、律法によって説得しようとするパウロの思いの現れである。パウロは創世記のアブラハムに関する個所を引用する。(22,23) 創世記 16 章以下参照。アブラハムはイスラエル民族の祖先で彼には二人の子どもがいた。イサクとイシュマエルである。パウロはここでアブラハムの妻サラから生まれたイサクを自由の女の子とし、女奴隷ハガルから生まれたイシュマエルを女奴隷の子としている。イサクは神の約束によって生まれたのに対し、イシュマエルは肉によって生まれたと言って、ただ単なる血のつながりのある子どもに過ぎないことを示している。このようなことからこれはイサクはクリスチャン、イシュマエルは肉によるユダヤ人を表していることは明らか。

パウロはさらにこのことには比喩があると言う。(24~26) 「シナイ山」とはモーセが律法を授けられた場所。「今のエルサレム」とは神殿のあるユダヤ教の本山、律法主義の本拠地である。それでシナイ山から出た律法、またその律法主義の本拠地であるエルサレムは「ハガル」つまり奴隷であり、奴隷となる子を産むと言う。「上にあるエルサレム」(黙示 21 章参照)とはこれとは対照的で「自由であり私たち(クリスチャン)の母です」と言う。

パウロはこの主張を裏付けるためにイザヤ 54:1 の預言を次に引用する。(27)これは律法は律法主義やユダヤ教という奴隷の子を産み、上にあるエルサレムが産む者は自由の子、キリスト者であり、しかもそれは多いというのである。

「兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子どもです」(28)パウロはガラテヤ人たちの信仰を強めるために、この旧約の比喩を用いて自由の重要性を強調する。「しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです」(29) イシュマエルがイサクを迫害したように、今も肉によって生まれた者であるユダヤ人が御霊によって生まれた者であるキリスト者を、律法を守らなければ救われないと迫っている。これが今現実にガラテヤ教会に起こっていることなのである。しかし何度もこのガラテヤ書で言われているように律法を守ることによって救われる人は一人もいないのである。私たちは信仰に堅く立って二度と奴隷の身分に引き落とされないように戦っていかなければならない。

パウロはここでまた創世記を引用して「奴隷の女とその子どもを追い出せ」と言っている。(30,31) 私たちクリスチャンは「自由の女の子ども」である。忍び込む律法主義やさまざまな間違った教えという奴隷の女とその子どもを追い出さなければならない。何を言われても正しいものはこれだと主張して戦っていくことが必要。しかし、自由は放縦や怠惰や好き勝手に生きるということとは違うこともしっかりと押さえておく必要がある。ガラテヤ 5:24

私たちはキリストにあって律法の縄目から自由になされたものとして、信仰を持って御霊の助けをいただきつつ、歩いていくことが大切である。

